

## 第 32 回山歩きの会は熱海の岩戸山を登りました。2025.06.04

岩戸山は熱海の北面になだらかな稜線を描く山で、箱根外輪山の南に位置する。尾根伝いの西方約 2km には大展望で知られる観光名所、十国峠がある。まずは熱海駅に集合、十国峠を目指して元箱根行きのバスにて十国峠入り口まで移動、ケーブルカー（3分、標高差約 100m）に乗り継いで十国峠に向う。十国峠は旧国名で伊豆、相模、駿河、遠江、甲斐、安房、上総、下総、武蔵、信濃、さらには大島・新島・神津島・三宅島・利島まで見えたことからその名がついたと言われている。しかし、当日は前日の大雨の影響か、ガス模様で、後ろに富士山



の雄姿が写るはずのフォトスポットも背景は真っ白となったが、取り敢えず記念写真を撮影（写真上）。

気を取り直して、岩戸山の案内板に従い、少し下る。源野実朝の歌碑「箱根路を 我が越えくれば 伊豆の海や 沖の小島に 波のよるみゆ」があり、歌にある大島や初島を近くの展望台から眺める。さらに下ると日光山東光寺に至る。ここは昔から地蔵信仰で栄えたところどころに地蔵が置かれている。岩戸山を目指してアップダウンの少ない笹道や静かな笹竹のトンネルを進み、頂上近くにて少し登ると唐突にテーブルと長椅子のある頂上に出る。熱海の市街や大島、初島、伊豆半島の先には大室山の頂上も見える。行程は登りがほとんど無く、予定より 1 時間早い、ここでゆっくりと昼食をとる。（写真下）



東光寺方向にきた道に戻り、手前の分岐を左に折れると広い尾根道が熱海の方へ向かって下っている。石仏の道である。200 年以上前、名主であった今井半太夫が亡くなった子息の菩提を弔うために石仏を寄進、その後、熱海に縁のあった人々が熱海・泉方面から日金山東光寺

まで一丁ごとに地蔵を寄進したのだそうで、1 から 48 丁目まで一体ごとに異なった表情をみせる石仏が置かれている。とことどころ急斜面もあるがアザミ他の花や蕨などが多く、見慣れた田舎道の雰囲気を出している。やがて林道になって急な坂道が始まる。土沢と言う地名が出ているが来宮駅までまだ 2km ほどある。延々と続く急な舗道をひたすら下って行くも、熱海の急坂は手強い。皆、足に疲労を感じつつ、しばらく我慢して歩くと来宮神社に到着。バス停を見つけ、熱海行に乗り、そのまま JR の車中にてビールを飲みつつ解散した。

（飛田悦男・記）